

珠洲市における脆弱性骨折患者を対象とした骨形成促進薬×体幹トレーニングによる自宅退院支援と二次骨折予防の地域実装

河合 雅文 ● 珠洲市総合病院 整形外科 医長



RECORE 院内研修会の様子

地域医療貢献のポイント

石川県珠洲市では、高齢化の進行と震災の影響により、人材不足や通所機会減少による骨折後の運動習慣獲得が難しく、転倒・再骨折が連鎖することが課題である。本研究では、骨形成促進薬の早期導入と自宅で継続可能な体幹トレーニングにより、退院後も継続できる二次骨折予防の支援体制を構築する。

1. 背景と目的

珠洲市では高齢化の進行と令和6年能登半島地震の影響により、人材不足や通所機会の減少が進み、骨折後の運動習慣を継続することが難しい状況となっている。その結果、体幹機能低下を背景に転倒・再骨折・再入院が連鎖し、要介護度の上昇につながるものが課題である。近年、骨粗鬆症治療ガイドラインでは骨形成促進薬が第一選択とされているが、薬物療法のみでは転倒予防には不十分であり、運動療法との併用が重要である。

本研究は、薬物療法と体幹トレーニングを組み合わせ、退院後も継続可能な二次骨

折予防モデルの構築を目的とした。

2. 取り組みの方法

入院早期に骨粗鬆症評価を行い、適応症例には骨形成促進薬を導入する。同時に、座位で実施可能な体幹トレーニング機器RECOREを用い、短時間で安全に体幹筋を強化する。退院後は機器を貸与し、訪問看護・訪問リハビリ・薬剤師・ケアマネジャーと連携して継続を支援する。RECOREが困難な症例には電気刺激により受動的に体幹筋にアプローチができるMedical Coreを補完的に使用する。

主要評価項目は自宅退院率と在院日数、副次項目は体幹機能、歩行能力、転倒、治療継続率、二次骨折とし、過去データと比較する。

3. 期待される成果

本取り組みにより、自宅退院率の向上と在院日数短縮、骨粗鬆症治療の継続率向上が期待される。さらに体幹機能改善により転倒・再骨折を減少させ、再入院や介護依存の抑制につながる。院内薬剤師による一元管理と訪問系サービスの連携により、退院後も骨粗鬆症治療や運動習慣を継続できる体制を構築し、地域における持続可能な骨折予防モデルの確立が期待される。また医療費・介護費とQOLを統合した費用対効果を評価し、地域包括ケアにおける実装可能なモデルとして、他地域への展開が期待される。